へ 13
3737
2

京山作

春の友
さくの
草紙
二編

京山作
豊国画

発兌二
屯堂新板

門 へ13
號 3737
巻 2

春はあけぼのの

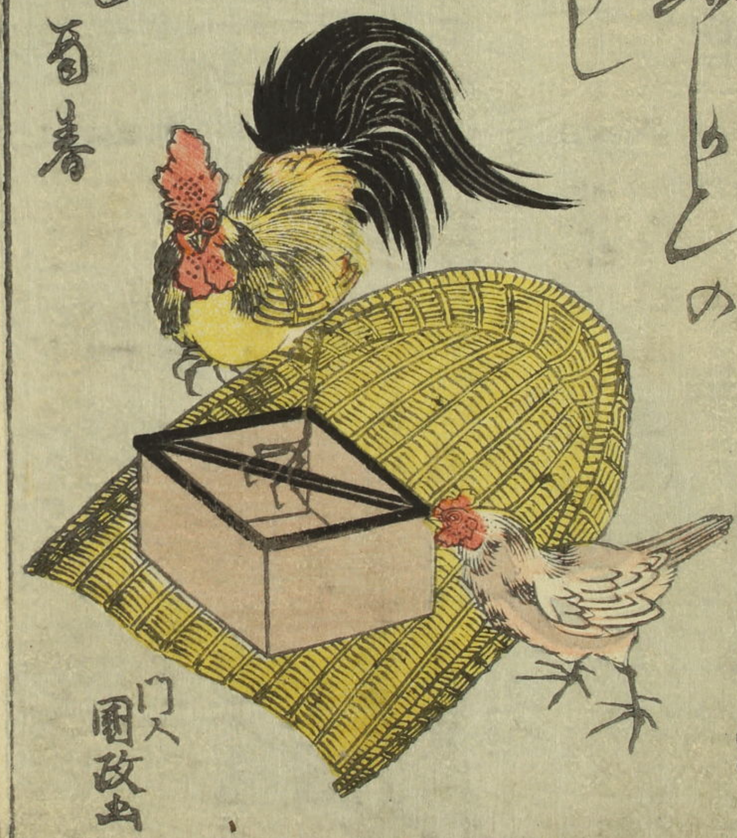
三番

京山作

豊國画

嘉永二年

百春



門人
國政画

けきふあらう　ふしとのさらしのあ
せ日ごろ　祝ふむりひよう　あ　春
りのこそ　拍乃　あれこそ　ぎまたく
ぐさみ　州と　ぢまたるん　見を　揚末のは　ともいかめれど
なこころ　名のこ　そまてこ　ぐく　春乃の　乃やこ　あきを　うこ　ふ秋
の風ふ　ま　ふ　ふ　ま　ふ　ま　ま　ま

春のみやこの所紙三編　きの文句

大庄や
山形
屋平兵衛
でんぢう屋代兵七

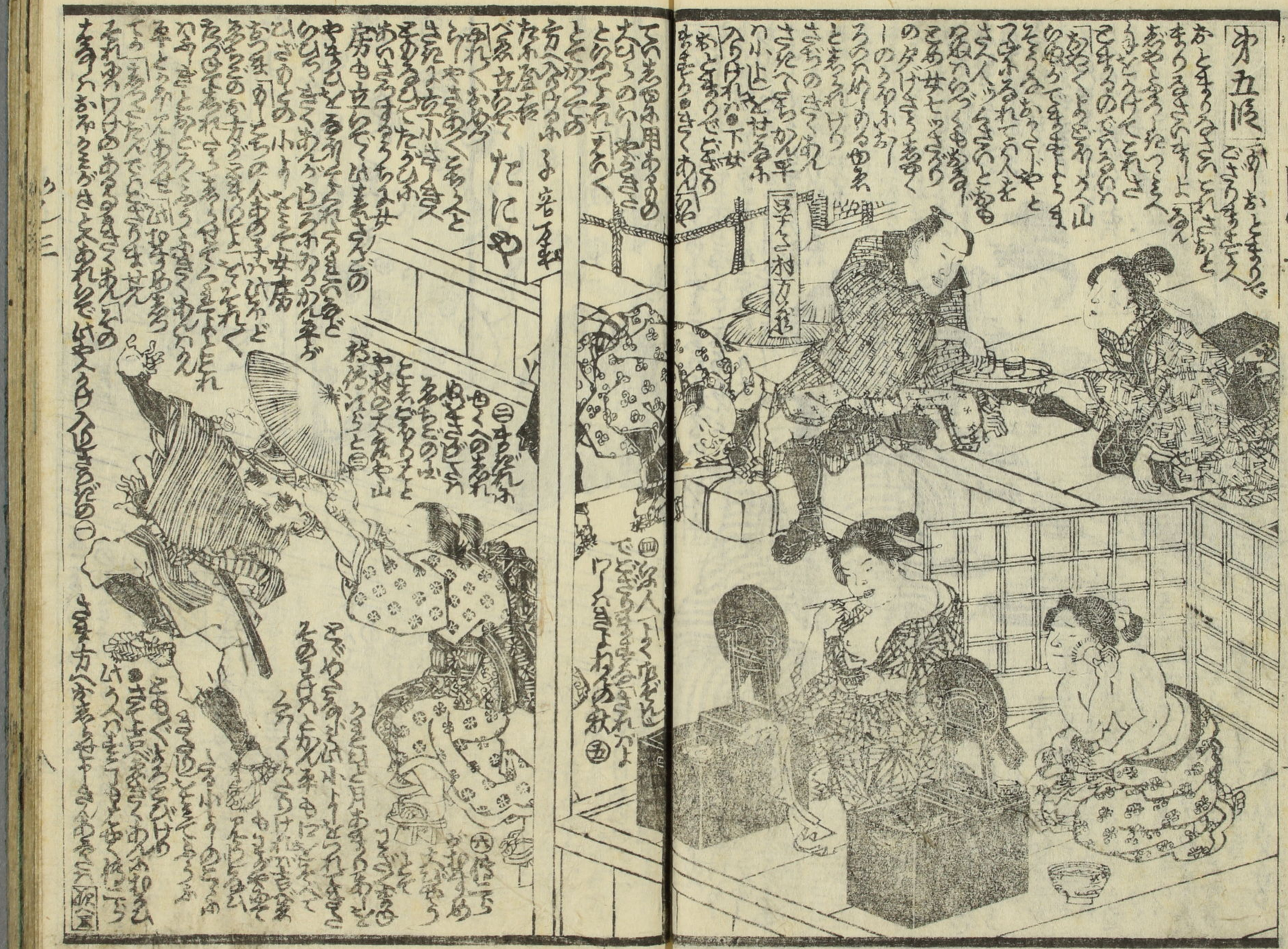
いやさ
きくあんをか

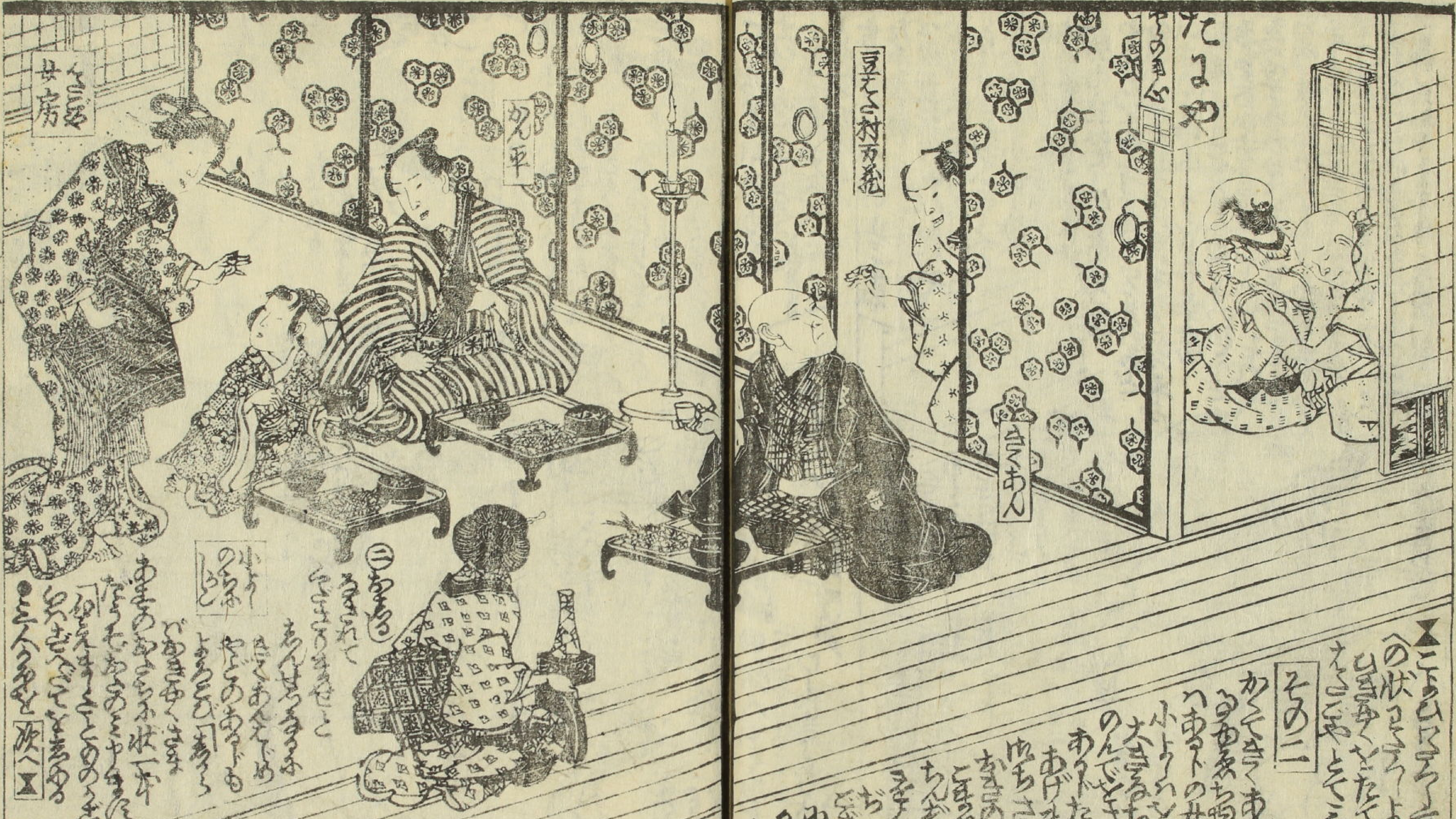
つまをかくる
母
秋の夜の
あわの
やつもあ
こゝろ今秋ふ
春ちのこまりぐ
山あをくまたかすり

さくまん

かん平
母
きくあん
男
かん平
おかる
小ぢのもとゆ

きく先
かんぺい
小よし
かるた


第五段
たにや



▲こよひにて一万へおよびや結願らくさまよ
への状こそこよりもあけ申せとあれば
心得ましたとてまたせとうとうぞえの内
をさこびやとて三人へ夕めしをいだしけり

その二

かくてきくあん八ッのむにあまんじまする
る由をちやうちきゝとぞいへばより日毎
へあるじの女房かん平ハからだ
小よりいきやうくあんむしで
大ぶるちくをこのしみツ尼ッ
のんできあせん女を付けれバ
あれどたちらで萬ぜんどの山さに
あげますものゝ尋をかゝさる
ゆちさこう一万ひかれいとさくも
おまみあぶく明ぎくあんさま
とまろくさなどぞろまはる中まゐ
ちん斎のまろりのよふやそれ
さもろうしてあらとまで四日
ちのひさむやくぬのが
どうぞ甘るお子とのさもう
ゆへあるおへの「おれもたゞ
つまやうけあれぬかん平
きゝてまたぬきの

とたのんでかぞうぞあろ
「おゆうきのうちとろや
ますおいと入まるくふ
こまらさくみこしよの
かうちをあひとそ一つの
の一とどあぶら「はさ
ム八十まりのあるもの
ちくとおきらんどあろち
どみかりまとらの
とあよりおどかの甘さて
生まれて山おかけ一ちう
まるく病のに門さて
一れあのふ九年ぞ
さまの乳もある
うけあるまにまでさ
村の万ぞまゐあうく
との病のかどまだまで
おそけら十さるしそう
あらく万を叶ゑゆれ
四日目またあるとても
はさ村の万ぞく豆
たのんでみちかなと
此状の中へ置（一）

（二）ちまる
まきれて
やぶきりぬせと
あんせちうちけ
たちのあんでめ
やどのあわども
よあこび「あつう
でおきのくさま
あまの中ちふお状一本
にしもあらみのかまれ
「御礼もこれとのかき
ゑとこてとさま
●三人の名を

次へ▲

五郎八
小比

五郎
かん平

京山作
豊國画

榮久堂刊行藏板略目

東都錦繪所
江戸よりし町おやぢ橋角
山本平吉梓

永花百人一首文字抄

首書繪抄

源氏六十四帖

花彩色絵

御誂染逢山鹿子

六編揃

縁結妹脊双六

遊宴國一面

七編　下

あるーあるこゝろをもてるものとそのこゝろをもてるものとのあいだにあるものは人ばかりなり
きのふいあるものの人ばかりをかりそめにもこゝろをもてるものとのあいだにあるものは人ばかりなり
けのふさいとくのきまくふつまとかさあるこゝろをもてるものとのあいだにあるものは人ばかりなり
ふとえあるこゝろとのいろいろもつやーにたとへこゝろをもてるものとのあいだにあるものは人ばかりなり
らいでおぎはアとしてしまいるふとがねのたゆみ
ゆとあるあるこゝろを川竹さかえるぐ
田のこゝろをもてるものとのあいだにあるものは人ばかりなり
乃中ようくたれがゆうけさまをそこれやと
ゆかとよびかけるもあるこゝろをもてるものとのあいだにあるものは人ばかりなり
ゆいつぎこゝのたゆみをかのしそうるもあり
ゆえこのこゝろをもてるものとのあいだにあるものは人ばかりなり
たゝそのかりてぶりあり△こゝをもち
どのこゝろ山ざとをゆかゆとそ
りこゝろをもてるものとのあいだにあるものは人ばかりなり
ゆんをつとあさとのかうまも
あるこゝろをもてるものとのあいだにあるものは人ばかりなり
こゝろをもてるものとのあいだにあるものは人ばかりなり
とうこゝのりく男七八人ゝあるこゝろをもてるものとのあいだにあるものは人ばかりなり
たるとうまとのそへうんとそ
ゆーこゝのたてぶたやの一ゆ
とかりこゝろ二三日あり
るゆふあるのたゝをもさびけるおかのごゝろの

人ゝ心は水

人ゑかられるお客小娘とものやうす
「うめくまんだあう
「あつくなまくあ
久

百三十二せん
八月
「五ゑんの虫けつろくの菓のこ
「コヒ
ゆもれ
さうせへ
ニツ
久ベエ

かとくとよし
坂のとあるくふ
せこいせーグ
あやぐん
めくしふ
みきき
をあらせ
めくしち
こまぶんはうち
ろうされもさる

(二)かまくらを
はじまり　まるく
のぞこのあさ
さいれんぐあん
あつふやらし時
あしやとあるる
せうくく
きりべれち
うまれて

おこん

ふるさと　ふるさと
村の二代の孫にう
女房えるのあしふ
ゆをゆさせ　夢を
あとくまを　さのうひの
ふくのませてうえし
ふるさとすあの小う
いらでかやのくえあ
ゑんまきこぶう
坂のとふあこ
ふれあらぐえ
ちよの大元や
山のちをの
月ふつさふうを
ゆらしふのふうア

ところをあとんをこれて
ゆけさりあちこちあ
ををでめがはぎめへ
あとんがはふあらぎ
ゆそやつれてゆけ
よりやどる
立ろるゆ
るまだ
りとのうま
くく立ろり
ともかくも
よをこさくうん
とちのくびち
あとんは女の
あるまだ
きりたり
るまぎ
ゆちふ
ケをうけ
「ちつとやまえでのき
れ人今の坂でくさびれこと
ゆふ坂でのこもこくちうけ
たぞとのこるぐう「ゆるかど
人をのろぐあるニツとれようくりろこ(一)

(三)あら
れくり
あちら
ゆい
百あ
れど
十あの
ゆきぎ
今で
小ようを
ちやふ
ひろくられ
ゆをめくしち百あろこ
とちのひこけにようをとのしがりゲ
けんるののとでぞたうイで

(四)
にはとりをぞぎる
ゆときはちう
百あと
ねいろ
れど

(二)子どもの
よそのあるあれ
ころかくさんたまけ
てと(三)

(四)をて
みるいふは
そのあの母
とよび
ようこ
(五)

(六)あれがあさ
小ようにあれが
小のと母とう
あふしう
小ようふ
ろうの子
ようにえど
かどいてとうに
見ても一ぐも
あるあくが
河のやまく
まくまく
えをせやの
かどうろでえ
まあうそとこやうと
ようくけたる
次へ

すくき
千宿
萬来
おくま
おこん

つくしのるうろうりの一つうこれとろうるぬーいちるのゆ二八村小ちーをち万義絲吹どのと
㊀
㊁あれがゆど耻でのこいくとぐぬれて可へあやぢ
㊂
おろく
㊃あらぶあねごいるまうで人ふまくれさ男の女房ぜんうまじのろでたくれさ小ようーあるをそくんでかうえとふじらふくこのぶたくるまあくこどもちるけれがたをも殺あくふくりのあの小ようとらられて絲吹くやあくる「えんるう方義ぶあくりるく表だうやそねぶんぐかきらとあるさ●こぐらだうくめ小じをさまそ
次へ

中ゞ
子中
そどり
おとせ

九郎
分
源内

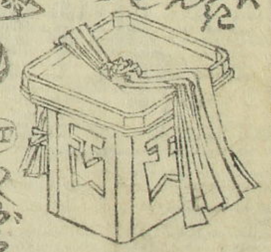
おろく
小よし
おとん

十四
下女お松
五人そめ五郎
お松母

どんべえ女房
せがれ忠松
わいたろう
十一段

そのあくにん

十二月



邯鄲諸國物語

初編八編連書　柳亭種彦作
九編十編新刻　一陽齋豊國画

菊壽童霞の盃　山東庵京山作　十編　新刻　一陽齋豊國画

朧月猫のさうし　山東庵京山作　六編　七編　一勇齋國芳画

春の曙の草紙　山東庵京山作　初編二編　新刻　一陽齋豊國画

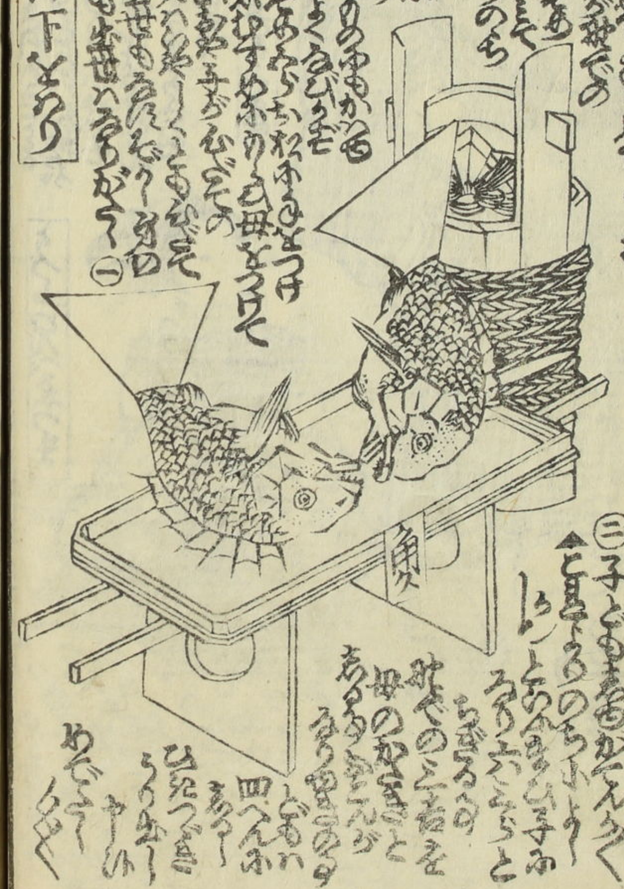
仙女香七變化粧　十返舎一九作　二編　一陽齋豊國画

竹女一代記　五蘭齋作　四編　哥川貞秀画

隅田川月姿見　式亭小三馬作　一編　一陽齋豊國画

美艶仙女香　一包四十銭　茶箱詰代　三町二自　坂本氏製
黒油美玄香
榮久堂　江戸芳町親仁橋角　山本平吉版

山東庵京山作
一陽齋豊國画



▲そもく　いにしへとなん下世ちこんの新でのこゝをとゝまるとゝまるべきとそのちゝ
みくにふたゝびしらい初つをとゝ
まるべきとそのこんとゝをとゝ
そのちゝ
ゝ
ゝ

春の分
四編
京山作

今ノ女中の文通ふやてゝくとゝとハそゞて物支ふつけて
見ゞ吉慶と推称ことゞゝり古書ふハ愛の字をやでゝと訓りとし
の本語ハかゝとトゝひて惶の字をかゝとと訓りかゝとの本語をかく
とゝもいふハかきくけこの通音ふ扱るゝりそをを又とゝト書ハらゝく
の筆勢のあまゝるゝり女の文のゝふもうゞてゞ公卿ゝらの古文書ゞ
ゝゝゝれバ男の文通ふもうきてゝるゝ支ゆて恐惶謹言と書ふゝるゝやでゝて
もゝとも古言ゝれバ源氏物語ハのゝとゝり古き物語ゞるふゝあまゝある詞
ゝり女のゝゝふゝとゝトのゝふハかゝでゝるゝゞめでゝくゝとゝトかくゝ東山殿ゝ
の事ゝゆて三四百年来のゝゝくゝふゝゞりかくゝふ証扱るハ引ゞき古書ゝの
まゝゝれゞゝらゝりそゝもゝ此仲ゞゝゝを春の秋ゝとゝふふちゝるゝゝて
やゞゝくゝとゝの訣を娘御ゝまゝく浩きゝゝゝゝ上いめゞゝくゝと

嘉永元年戊申八月稿本同冬上末酉春新發　八十翁　京山

ひとのさうし四へん上
大のさのうるとあてさくのこめをふまるせうらくてをごとうるごとのせてそのやうへちうるこをごやとてそのありさあはこてふをうけるごと
とてわごやのあべしがつまあうろとりくはんはんはのうるこのげのーやありしがせうのこをふまとこへあとてのちをとりのさあんゆてもてひとう
おろろ
のちこのごやのつまうをてスッの男の子ふとまろいあろをのちのつまわもくしわさきのつまのひきぶちりわとちろりあうんぶんげーくあきるのひわのようくるれけれはあーあべしはうわやともあろうふうちまうをてくしける・このごやはうつまわをふきくをあてわする
ありひあ
見べようふとさうしたーきあくおうんがとろあきもきあいらんようふろのつひゆそふさものりーをあさあうしづわろうろうこのへんーをふさものわをてくー
「吉やものどいハイ月花のー」

坐での三
小よう
おちよん
二段
だいどこ女房
おうめ

三段

おろく

その二

四段

みべ七

五段

二

らんぐらごぜん
天天流天郎

関屋
千部

ふとり
おとん
のぞの三

二子長松
つまぶし

さてこのようにてあやのうへをはかりとるに大さ
きさ長さ小さきものをはかりとるに六十やまへどそこ
るるものを人つてゆもてもやのうへをきくとの人
きられたるものをはかりとるにあたりのうへをきくとゆ
のこの三吉ちゝもあかさんくゝと
小ようがをきうきとこのゆか
つけてちりさうなりのうまど
ちゝくるふるひんとものあくまとも
りのべきやうう一天こうさる
とまをよこ目わこうまふハ
さりとハきこえぬことてとも
おりのへべけれどぜんるもあくも
ときいてくぎればあくらまを
うあもこともこうるちうり
しとうてりくぎさうもくの
たゝまきくもちの
らき木のたえるときに
りてくぎればたえぎそ
りをやけをいのりて
ぐんをうけるハうが
ねぐんことのさま
おう一あれどとさき
りてくぎればねぐんこと
うあくぎをこまかど
いのりくもとりをやけを

三 こびのうの
とのいとさきちゝのの
きとさきちゝのの
まくりの
さうりとも
ちうんと
ひとも
ちうんと
ひとも
のんちゝの
ちうんと
ちうんと
ちうんと

八十翁
京山作
豐國画

榮久堂刊行藏板略目

永花百人一首文字物

首書 繪抄

源氏五十四帖 極彩色 小錦絵

大ハ源氏物がたりの五十四帖をくわしく絵がきそれゝ附しそた極彩色ゆへ一ぱ色を国芳ひろひりの手よハ古今上品の彩絵なり

但五十四枚揃 たゝう入 はた入

御誂染逢山鹿子 六編揃

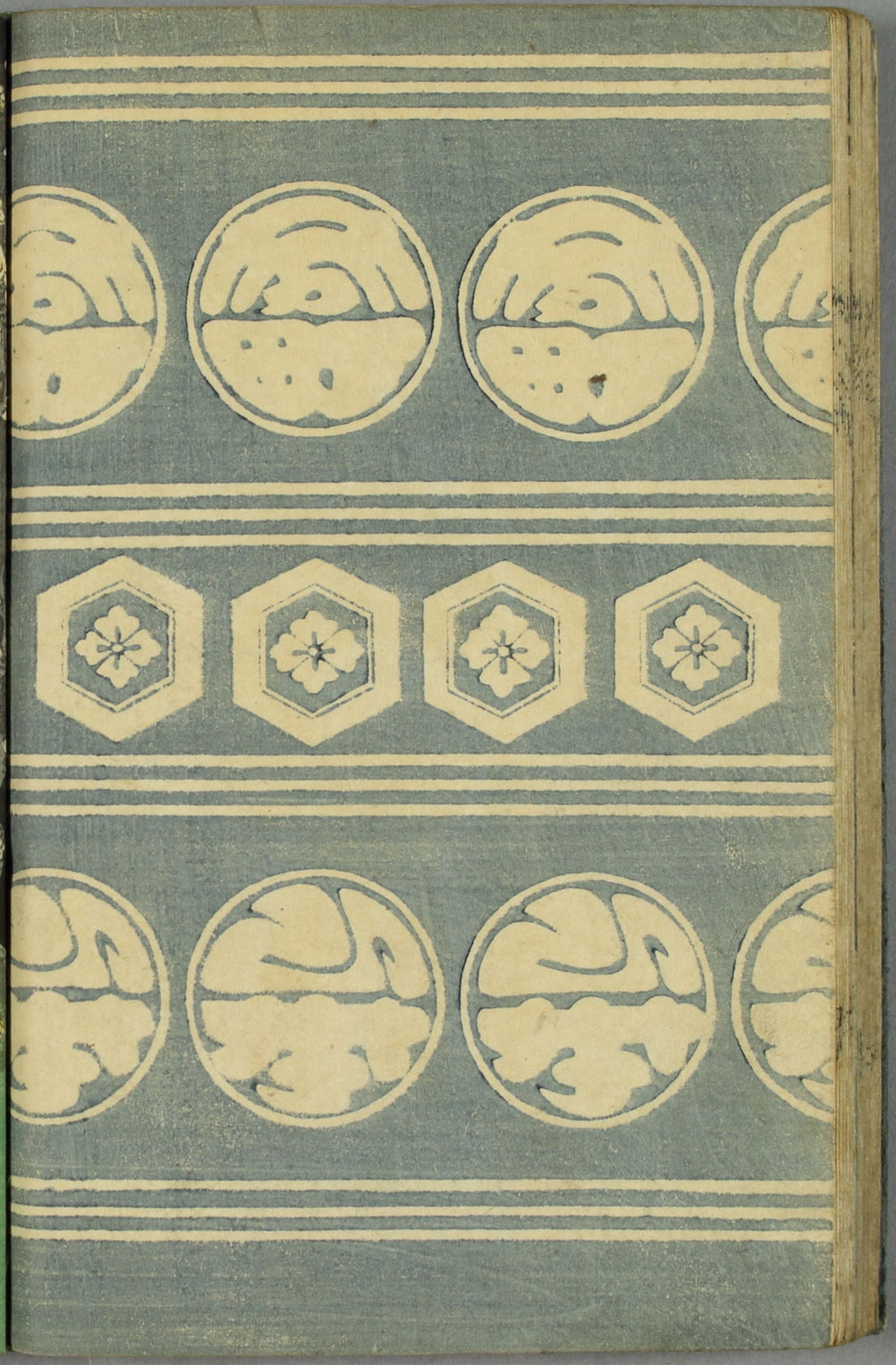
はさらしハ故人柳亭の種考ゆ紀ゆしてかゝるれ法ぞろの不波名屋張くゝくのこゝを例の彩業丹誠わゝ是一枚向なれがつゝひ出色とゝゝくのとゝ紀ゆ目をもゆきれたおりゝ紀州紙なり

菊壽童霞の盃 京山作豐國画 十編揃

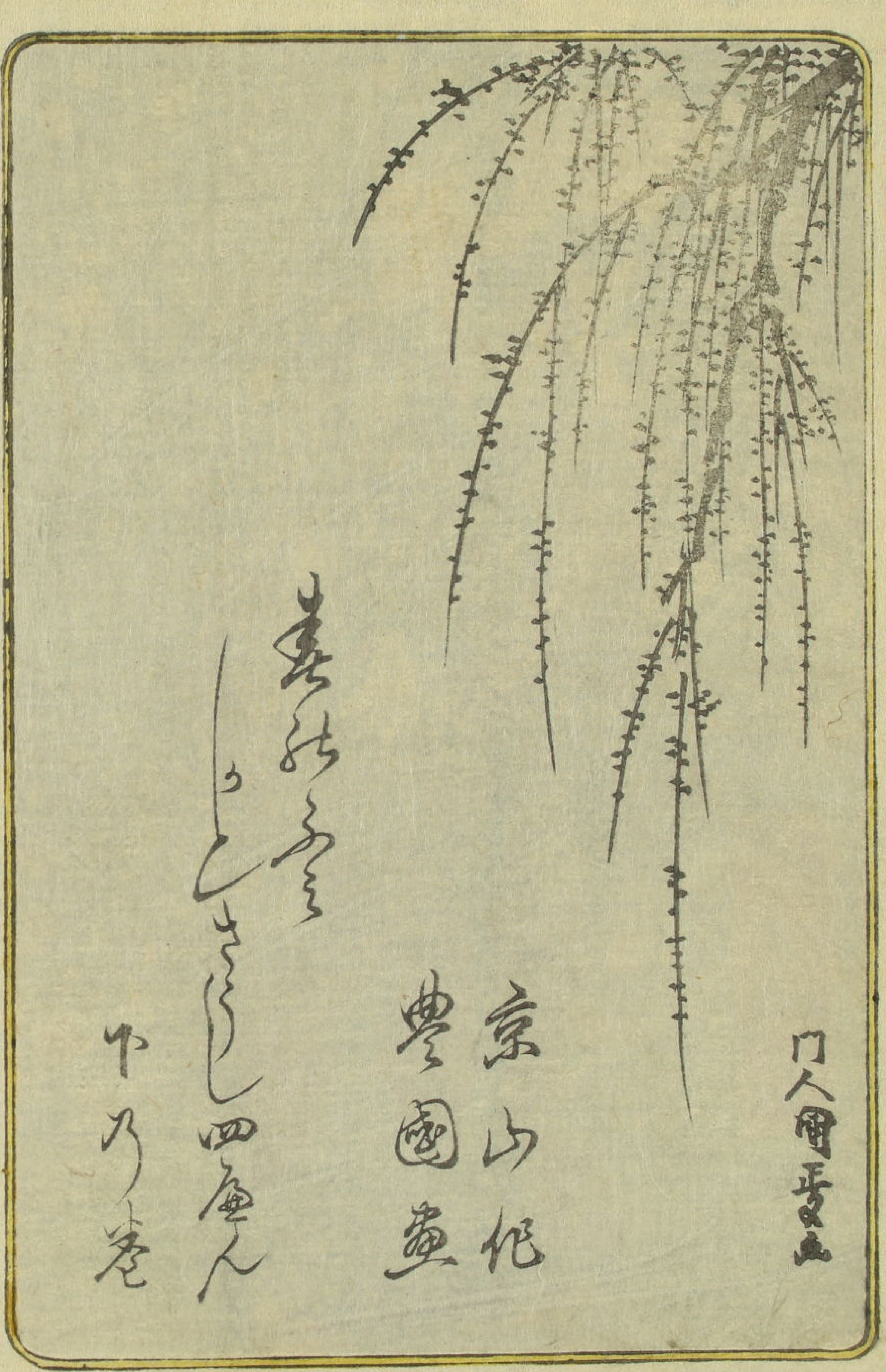
朧月猫のさらし 京山作國芳画 七編揃

東都錦繪所
江戸ゝ町おやぢ橋角
山本平吉梓

歌王國画



七段
下


京山作
豊国画

ふそぐらひ
げんた
のどの三吉
おとん
小よし
三吉

福清つまあきよ
小よし

南嶺
福清

十一段
げんた
おとん

十二段

福清

十三段

おきよ

小ようし改
ひとし

十三段

きるりぐあ
六三郎と
サニなるれば
らくれさぐ
大りやうの
とあるくひを
きもんとかや
とをとをもく心の
のゆわくぎり
しがいらるる
ゆとのうくふ
のぞきのまま
らくいでぐあ
がうとうんで
トうきかきを
のとーしらいや
ければあるあや大ふ
あるきうくれ
ゆまくうのでをふ
あとうぐあ

㊀田へ出
ろうふ
こと一廿二戌
六三郎とぐうねんの
どうれあり名を田吉と
のめ・さてある日のゆふ
ぐれと六三郎一人り
よびまぐとゆてきたり
けれバ田へ出もぐろき
ものゆ六三郎のうとく
きる六三郎ろれば
あ　めかえぐあ
ゆうをさけまぐ
うゆうくのうきおき
をのこ一りときて
さまぐいけんをいひふるる
おとろぐとこぐ㊀けれどもろふ
ものやうりとぐうりれ
ひゆくーゆうが
りていのべきことぐも
ゆくゆうふふろをたうも
やきうくのきうりやつけ
くうよりけんぷのゆぐを
いぐーるぐーてりぐうりけり

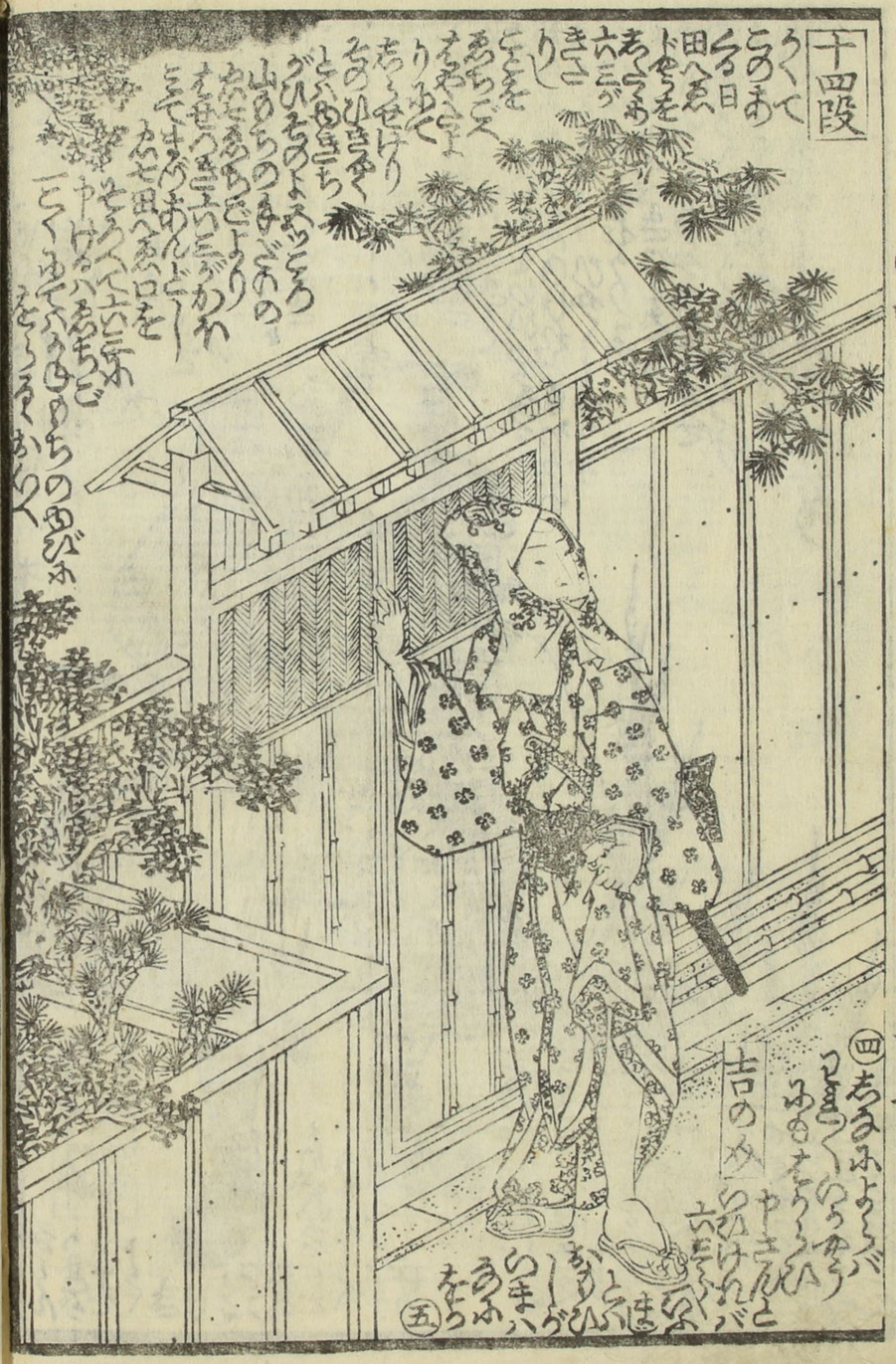
山村傳次郎
六三郎

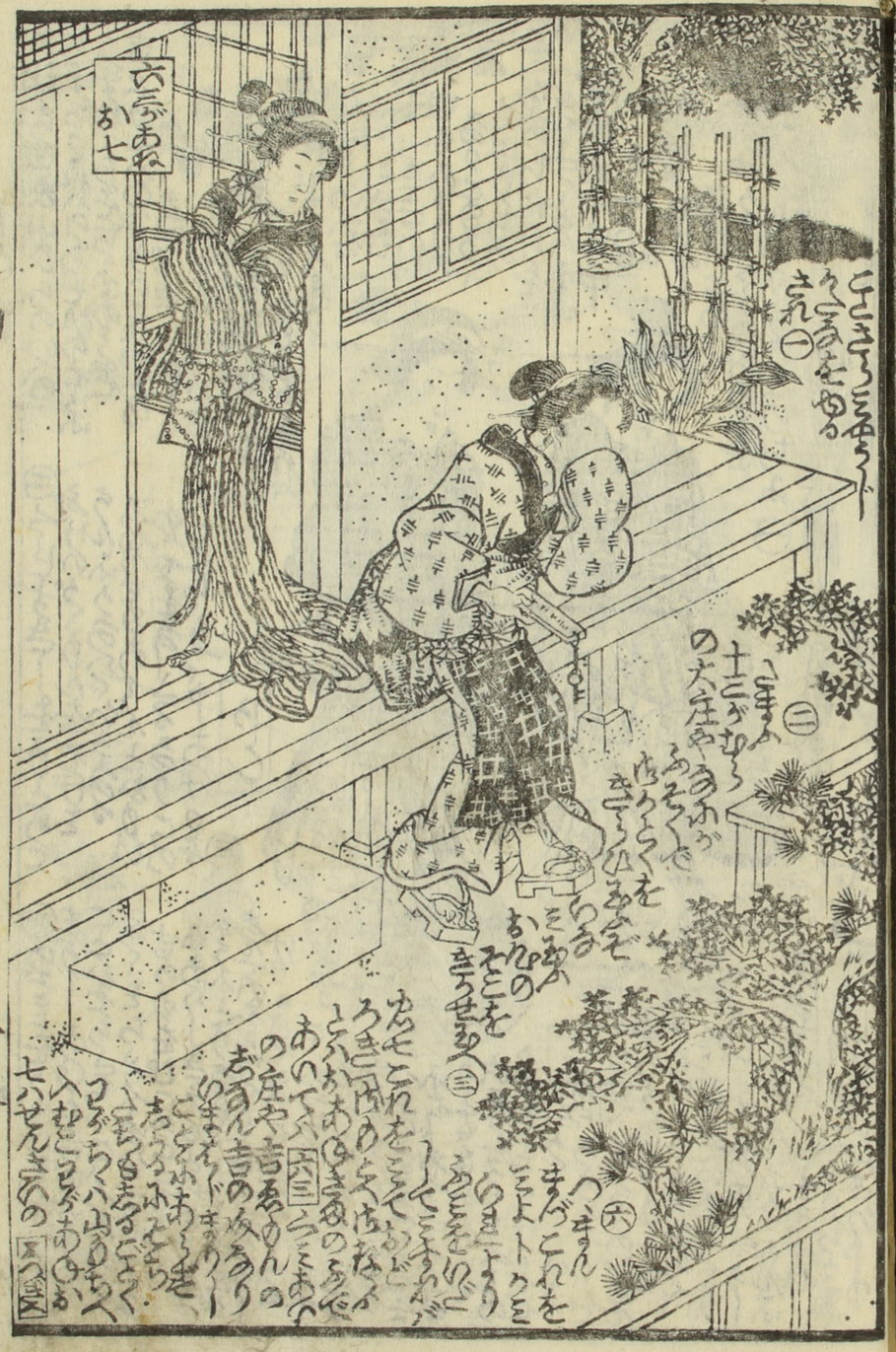
あーん
うまうが
心をよく
きけ
ちうそ
ぎの
ものを
うまくーく
つうーけり

その二

㊀ハ
ものちや田へ出
とぐうあゆう
ちうまく低るる
あきうの大きを
とれまるのうち
の傳二ぐ
でをゆて
ちゆんもす
三ぐちーある
りどうり㊀

十四段





十五段　ちのあるーをくてたいこ
うはくうまくーのだんな
そのだんのうちく
くーをさこのくをつくり
けらの三人の男てくし
ぶげのくーんわ
かをもだれ
田吉　そうちうさき
とくりの

田へ長せぶれ

（一）ちすぢのあ山のちのの人の
ちすぢこれハのちぞひのそをふ
うまれてちをぢふあくぞ
吉ゑのん八のぐくの庄やその
ぢゑん吉のめを
むとふとるハゑく
ゐもあるすぢ
吉のめぐかぐぞハ
つらぐとるぐちゐれバ
よく者より

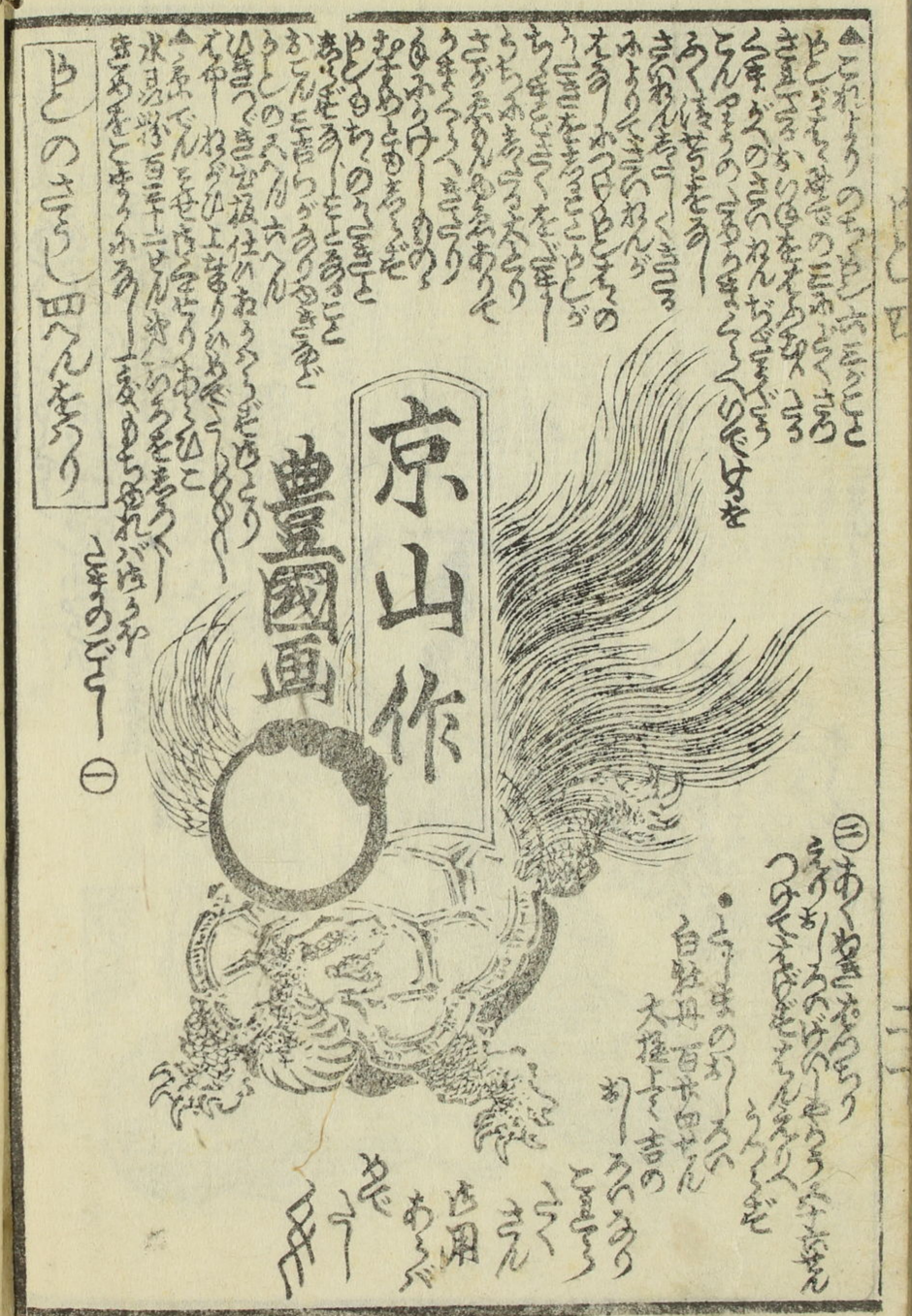
（二）くーとよきーをのとあて
ぶげのぐくのんをなぢと
うんかうのくぐくのう
まるつせのあくんとおのれ
ゐでをうすとるるうくの
ととちうくーやあげつぶ

いろし

（三）ゐくを
ぢきこえのち
もあるうの
まりまるく
ゐ山のちのの
ゐのちをぢを
つちをくくるまさ
おのれあべとる中
そくを
くゐ
ゐりて
つれハちの
うまくくのぢゑんを
ゐりうけちのちゐ

（四）のぢこをうのくせくれよ
まうーあゆと吉のめが
とこハそちこちがこくろゐのこ
ふくこちくうくゆハきろせやゐ
吉の仏をむこのこすくこ
ゆゆくーきえんとのこよきこ
ぢうゐくりるをーーート六三ぶ
ぢんてゐをきてまくりんまんゐ
けり　さそこのこんまいこのム
こくくくーければまる
こまハゐ吉のめ六三ぶ
ぢんてゐをとこきう
づきのこのこゐハちうま
ゐちづわくきてくふこ
りまるをあゐも
六三ぶをうまくこの
うこををぢをけくこそ

六三郎



嘉永三年庚戌春新版稗史目録

薄紫宇治曙 柳亭種員作 一陽齋豐國画 初篇 二篇 三篇
この世うもれるぐんじゅ色の内宇治十帖をうもれの代ふるあらくさ娘おひげ年はいこれ古来のくさ二度の花ひらくさ年帝上ゲ

邯鄲諸國物語 柳亭先生舊案 仙果作 一陽齋豐國画 十一篇 十二篇

堀川唄真實録 笠亭仙果作 一勇齋國芳画 初篇 二篇

春の文とし紙 山東庵京山作 一陽齋豐國画 四篇 五篇

美艶仙女香 一包四十八匁 京橋南伝馬町三丁目 坂本氏製
黒油美玄香

雙討妙々車 柳亭種員作 一陽齋豐國画 初編

仙女香七變化粧 十返舎後一九作 一陽齋豐國画 二編

蜀紅錦七寶續 此君園桃栗作 一雄齋國輝画 初編

榮久堂 江戸芳町親仁橋角 山本平吉版

嘉永三
成春彩板
春の友
四篇
京山作
豊國画
一雄画